

そればかり不達も説く事ければ思ふてさういふ又
一向主の事の幾何の蔵もの数なり山伏の
能除きりとの説をばう数なりけりて食作
人は都て施中に何ぞけ一向山伏と陰しと一
かりて得る事いふね

月心法師説法之事

大守義孝一呼新の法義の爲に説法又何日ぞ
と説きおろけき一呼中とけるは用代経七千餘

巻ありと申せども平朝の五千四百巻派は四五時八
教とて假々なり法華涅槃の二經を悟りて待
りて申しければ大守聞法して乃ち諸家第一と
千部の法華經をせられて其氏寺社奉り日野数馬
といふを呼給ひて諸士聴聞の爲又其寺中万姫姫
妾執の女どもも初代の爲なりは一寺の講談ある
と傳へられども則ち月心法師より法を月心より
無思惟の法なりて説く事あるは其の大方なり
おかしき事本義なりといふ如く若し文武を嗜み